

滝ノ城」城跡

夜戦で主君上杉憲政が小田原の北条氏康に敗れたのの時代、天文十五年(1546)四月二十日の河越た大石氏であるが、十四代遠江守定久(法名は道俊)築城は武藏国の多摩・入間・高麗郡を支配してい

を養子として、定久は家督を譲ることになり、滝ノで、定久も氏康に降った。大石家は氏康の次男氏照

城は北条氏照の持城となる。

永禄七年(1564)~天正五年(1577)、北

関東を結ぶ重要な連絡拠点となったようだ。氏照は八王子城に移ったので、この城が八王子と北陣揃の場所になったといわれている。天正十五年、条氏照が野州(栃木県)に出兵した折り、この城が

要部分は跡地として残され、いまに至っている。家康の領国となり、滝ノ城は廃城、そして、その主天正十八年、小田原城の落城後、関東一円は徳川













がの城場がある

所在地 所沢市城五三七ほか

である。 •流れる柳瀬川を防御線とした平山城で、その敷地は約六万六千平方メート 狭山丘陵の一角が低地に向って落ちる急な崖を利用し、

西には、空堀をへだてて二の郭的な曲輪があり、城はこの方向にいくつかの 下に見下す城の東南部に位置し、現在の社殿は櫓台跡の上にある。本丸の北 現在でも本丸を中心とした遺構が良く保存されている。本丸は柳瀬川を眼 にようで、部分的に遺構が残存している。また、大手は、さらに たとみられている。

八王子城に移る)の支城といわれている。 北条氏照の持城と考えられ、滝山城(永禄十三年の戦いの

番所があって固めてあり、城の防備と密接な関係があったと推定される。 永禄七年(一五六四)の北条氏の清戸番衆交代命令状を見ても、清戸下宿に

天正十八年(一五九〇)、豊臣秀吉の小田原城攻略の際、落城したものと考

えられている。

大正十四年三月三十一日付けで埼玉県指定史跡となっている。

昭和六十年三月



